

令和4年1月7日14時00分
資料配布 近畿地方整備局

脱炭素社会の実現に向けたJブルークレジット購入申込者公募 ～兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり～

近畿地方整備局では、脱炭素社会の実現に向けて港湾における「カーボンニュートラルポート(CNP)」の形成に取り組んでおり、その一環として、CO₂ 吸収源であるブルーカーボンを活用した港湾・沿岸域における環境価値の創出に関する検討を進めています。

この度、神戸港の兵庫運河で創出されたブルーカーボンにおいて、ブルーカーボン・オフセット制度を活用したJブルークレジットが認証され、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合(JBE)から申込者公募が開始されましたのでご案内します。

沿岸域の藻場等に生息する海洋植物に CO₂ として取り込まれた炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、国連環境計画の報告書(2009年)において、CO₂ 吸収源の新たな選択肢として提示されています。

国土交通省では、藻場の保全活動等の実施者により創出されたブルーカーボンを貨幣換算したものを「Jブルークレジット」として認証し、CO₂ 削減を図る企業・団体等とクレジット取引を行う「ブルーカーボン・オフセット制度」を進めています。

この制度を活用し、神戸港の兵庫運河を対象としたプロジェクト「兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり」で創出されたブルーカーボンが「Jブルークレジット」として発行され、譲受人公募が開始されましたのでご案内します。

なお、本公募において、Jブルークレジットを購入した企業・団体等に「Jブルークレジット購入証書」が発行され、3月中旬頃に交付する見込みです。

1. 公募期間 令和3年12月28日(火)～ 令和4年1月31日(月)

2. 公募機関 ジャパンプルーエコノミー技術研究組合(JBE)
<https://www.blueeconomy.jp/credit/>

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、神戸海運記者クラブ、神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ、神戸経済記者クラブ、港湾新聞社、マリタイムデーリーニュース社、海事プレス、港湾空港タイムス

<問合せ先>

国土交通省近畿地方整備局

港湾空港部 海洋環境・技術課 課長 久保 富広(くぼ とみひろ)
課長補佐 宇野 健司(うの けんじ)

TEL:078-391-7571(代表) 078-391-3103(直通) FAX:078-325-8288

J ブルークレジット発行概要

2021 年 12 月 24 日

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

理事長 桑江 朝比呂

兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり

(令和 3 年度申請分)

当組合は、「兵庫漁業協同組合」「兵庫運河を美しくする会」「神戸市立浜山小学校」及び「兵庫・水辺ネットワーク」らを創出者らとする令和 3 年 10 月 27 日付「プロジェクト登録申請書兼 J ブルークレジット認証申請書」による申請に基づき、2021 年 12 月 20 日開催の J ブルークレジット審査認証委員会（令和 3 年度）による審査・認証結果を受け、その申請された

プロジェクト【プロジェクト番号 202112JBCA00003】

の実施に係る

クレジット認証対象の吸収量：1.9 [t-CO₂]

に次の認証率

67.5%（＝活動量認証率 75%×吸収係数認証率 90%）

を乗じた吸収量から、

プロジェクトの実施に伴う排出量：0.13 [t-CO₂]

を控除した後の CO₂ の量（ただし、0.1[t-CO₂]未満端数を切り捨てたもの。）である

1.1 [t-CO₂]

につき、次の J ブルークレジット

シリアル番号：202112JBCT00003-001 から 202112JBCT00003-011 まで

を発行した。

プロジェクト名：兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり

・プロジェクトの概要

兵庫県神戸市兵庫区に位置する兵庫運河について、水質浄化や藻場の造成、周辺環境美化活動について取り組んでいます。貯木場跡地付近にて、近畿地方整備局・神戸市のそれぞれで造成された2つの干潟での活動について、今回申請を行います。

- あつまれ生き物の浜
- きらきらビーチ

■ 対象

アオサ・ジュズモ・アマモ・干潟

■ 申請者

兵庫漁業協同組合 、 兵庫運河を美しくする会
神戸市立浜山小学校 、 兵庫・水辺ネットワーク



兵庫運河の位置



兵庫運河



小学生への干潟お披露目会



アマモの繁茂

・プロジェクトの特徴・PRポイント

- 第五防波堤撤去工事からの発生材(石材、土砂)を流用して、兵庫運河に干潟(あつまれ生き物の浜)を創出しました。
- 磯場・砂場・タイドプールなど、小学生からの意見を取り入れて造成し、環境学習の場として利用されています。愛称「あつまれ生き物の浜」も小学生によって名付けられました。
- 干潟へのアマモの播種や移植などの活動を行っています。
- 漁業関係者や大学生が協力し、干潟の有する水質浄化やCO2固定能力の調査も行っています。